

下田の宝

下田市立稲梓小学校 六年 鈴木 穂香

「今日は、みんなで下田の将来について考えてみましょう。」

と先生が言った。私たちは、総合で自分の将来について勉強している。将来は、どこに住んで、どんな職業に就くのかについて考えてきた。

「私は、下田でいいかな。」

下田なら親やおばあちゃんの家が近いし、知っている人がいれば安心だから、下田でもいいと思った。でも、調べてみると下田の人口は、どんどん減っているらしい。私の同級生は六人で、複式学級になって五年生と一緒にのクラスになった。稲梓からは、中学校もなくなってしまった。

(下田は、これからどうなるのだろう?)

私は、少し不安になった。

去年の十月、私は修学旅行で東京に行った。東京には、遊ぶところや電車、タクシーがとても多かった。私は、

「すごい！下田と全然違う！」

と驚いた。もし、自分がここに住んでいたらと想像すると、すごくわくわくした。東京にたくさんの方が暮らしている理由が分かった気がした。

でも、私が一番しょうげきを受けたのは、海だった。水がにごっていて、魚や貝などの生き物の姿が全く見えなかった。私が知っている海は、水が青く透明で海の底が見える。私は、海で泳ぐことが好きだけど、その海は「泳ぎたい！」と思わなかった。

(海がきれいなのは、当たり前じゃないんだな。)

なぜ、下田の海は、きれいなのだろうか。海がよごれてしまう原因は、人が出すゴミやはいき物だ。下田でも、時々ペットボトルや缶が落ちているのを目にする。下田の海がきれいに保たれているのは、きっと下田の自然を守ろうとしている人がいるからだ。私は、その時初めて下田の人と自然のよさに気付くことができた。それがきっかけで、私は下田のことをもっと好きになった。それが、下田の魅力で「下田の宝」なのだと思う。

私は、将来看護師になりたい。看護師になるためには、大学や専門学校に行かなければならない。だから、一度は下田を離れる時が来る。でも、いつかは下田にもどって来たい。初めは、下田でいいかなと思っていただけ、今は、

(下田に住みたい！)

と心の底から思うようになった。きっと私の他にも下田の宝に気付いてくれる人がいるはずだ。ゴミを拾ったり、生き物の住みやすい環境を整えていったりするなど、私たちにもできることがあると思う。よさを当たり前とせず、下田の宝が輝き続けられるように、下田のみんなで守り続けていきたい。